

【様式 02】高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	21212
----------	-------

1. 開設大学	広島大学 総合科学部			開催方法 (キャンパス・施設)	■対面 (東広島キャンパス) ■オンライン (同時・録画)	
2. 科目名	フィールド総合サイエンス；陸から海への SDGs に向けて					
	学問分野	番号	43, 32, 33	名称	環境、理学、農学	
3. 担当教員	小野寺真一・齋藤光代 先進理工系科学研究科 山田俊弘・竹田一彦 統合生命科学研究科					
4. 開講期間 (曜日)	令和 7 年 8 月 5 日 (火)					
開講時間	10 時 00 分～14 時 50 分 (50 分×4 回)					
個別開講日	1 回目 8/5	2 回目 /	3 回目 /	4 回目 /	5 回目 /	6 回目 /
5. 募集定員	50 人 (受入学年：高校 1 年～高校 3 年)					
6. 科目内容・授業計画	【講義内容】 本講義では、持続可能社会の創造に向けて、陸から海に至る現場スケールでの観察の重要性を様々な視点から得られる情報をもとに掘り下げていき、瀬戸内海からアジアにおける未来の自然環境リスクを理解し、その軽減に向けての可能性を考えたいと思います。 国連の提唱する 17 項目からなる「2030 年までに達成すべき持続可能な開発目標 (SDGs)」では、特に、「海の豊かさを守る」(14 番目) および「陸の豊かさを守る」(15 番目) という目標の達成状況が現在極めて低く、大きな課題となっています。 現場で起きている環境問題は、まさに多様な視点からの理解があつて初めて、その明確な原因や解決策が見えてきます。4 回からなる講義をリレーすることで、陸から海への総合的なフィールドサイエンスについて理解を深めたいと思います。 【講義計画】8 月 5 日 (火) 会場：総合科学部第 1 会議室 (集合 9:50 集合場所：総合科学部事務棟正面玄関) [第 1 回]:小野寺 (流域環境学) 10:00-10:50 流域環境・物質循環の視点から、流域スケールでの陸から海への環境リスクを瀬戸内海やアジアでの事例をもとに概説し、SGDs の重要性を考えていきます。 [第 2 回]: 齋藤 (地球科学) 11:00-11:50 地球科学の視点から、陸域における大地を構成する地質について瀬戸内海地域を中心に概説し、地質と環境の関係を考えていきます。 [第 3 回]: 山田 (森林生態学) 13:00-13:50 生態学の視点から、陸域における生態系・環境と人との関係を概説し、どのように保全すべきかを考えていきます。 [第 4 回]: 竹田 (大気海洋化学) 14:00-14:50 大気海洋化学の視点から、大気から海洋における環境化学について瀬戸内海から外洋までの事例をもとに概説し、環境保全について考えていきます。					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし					
9. 開講条件 ※1 あり・ない	① 最少開講人数 () 人 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日：6 月末まで					
その他特記事項	受講者についての制限事項、オンライン (同時・録画) の使用ソフト、受講時の注意など 参加者にはフィールドノートをプレゼントします。オンラインは Zoom 使用。 対面又はオンライン (同時) の希望を推薦名簿の備考欄に必ず記入してください。					
開設大学への交通手段	https://www.enica.jp/ → 広島大学→交通アクセス→東広島キャンパス 総合科学部事務棟 M (キャンパスマップ W01)					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。